

【国語】 < 中学校 第2学年 >

1 結果のポイント

「話すこと・聞くこと」について、どのような事実を取り上げて話しているのかを正しく聞く力をみる問題や、事実と意見との関係を考えながら聞く力をみる問題では、正答率が90%を上回っている。

話し手の説明の仕方の工夫を聞く力をみる問題では、正答率が70%を下回っている。

「書くこと」について、相手や目的に応じて情報を取捨選択したり表現を工夫したりするよさを理解して書く力をみる問題や、資料をもとに具体的な例や体験から自分の考えや理由をもち、決められた字数で書く力をみる問題では、正答率が70%程度である。

「読むこと」について、説明されている内容や筆者の論理の展開を正しく理解しながら読む力をみる問題では、正答率が90%程度である。

「言語事項」について、第2学年までに学習した漢字を正しく読む力や、慣用的な表現や敬語を正しく使う力をみる問題では、正答率が90%を上回っている。

同訓異字や対義語を正しく使う力をみる問題では、正答率が60%を下回っている。

2 結果の分析

(1) 話し手の説明の仕方の工夫を考えながら聞く力をみる問題の例(「聞く能力」)

<問題> 四の二

小林さんは、「若者言葉」を使った人の数を説明するために、どのような説明の仕方の工夫をしていますか。最も適切なものをア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。

ア クラスのアンケート調査の結果を、全国の結果と比べて説明する工夫。

イ 使ったことのある人の数を年代順に示して説明する工夫。

ウ 一つの若者言葉についてのみ使った人の数を強調して説明する工夫。

エ 使った人の数を比喩表現を用いて説明する工夫。

<結果> 正答率 69.8% (正答...ア)

<分析>

この設問は、話し手の説明の仕方の工夫を考えながら聞く力をみる問題である。同領域の他の問題に比べると、2割程度正答率が低かった。話合いにおいて内容を正しく聞き取る力は定着しているが、「どんな説明の工夫がなされているか」に注意しながら聞く力に弱さがみられる。この結果から、「話の内容」だけでなく、話の内容や意図に応じた適切な語句の選択や効果的な使い方などに着目するなど、「話し方の工夫」に注意しながら聞く力の指導が必要である。

(2) 資料をもとに具体的な例や体験から自分の考えや理由をもち、決められた字数で書く力をみる問題の例(「書く能力」)

<問題> 五の二

「手紙は手書きで書くべきか」の四つの回答について、あなたが関心のあるものを一つ取り上げ、そのことについてあなたの考えと、そのように考えた理由を書きなさい。ただし、次の(条件)に従うこと。

(条件)

題名や氏名は書かないこと。

書き出しや段落の初めは一字下げること。

段落構成は二段落構成とし、第一段落ではグラフ中の項目の一つについてのあなたの考えを、第二段落ではそのように考えた理由を、具体的な例や体験を交えて書くこと。

解答欄に合わせ、五行以上七行以内で書くこと。

<結果> 正答率 71.9% (正答...略)

<分析>

この設問は、指定された条件に従って、自分の考えを明確にし、具体的な例や体験を交えて決められた字数で書く力をみる問題である。昨年度の正答率が63.3%であることを踏まえると、授業改善の成果が現れているといえる。解答欄に記述した生徒は90%程度であり、昨年度と同様自分の考えを表現していこうとする意欲はみられるが、誤答には考えの理由となる具体的な例や体験が的確に記述されていないものが多かった。この結果から、書く目的や相手を明確にした単元指導計画を作成し、確かな根拠となる具体的な材料を取材したり、目的に応じて材料を取捨選択したりするなど、自分の意見の正当性、妥当性を説得力ある論理の展開で書く活動をさらに重点的に行う必要がある。

(3) 文脈中の人物の立場の違いを正確にとらえながら読む力をみる問題の例(「読む能力」)

<問題> 四の三

Aの文章で、法輪寺三重塔の復元について、棟梁のNさんと設計者のTさんの考えの違いが書かれています。最も適切なものをア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。

ア Nさんは生命力がない鉄材の不使用を主張したが、Tさんは最低限の鉄の使用を主張した。

イ Nさんは昔の設計の欠点を補う方法を主張したが、Tさんは欠点も認める設計を主張した。

ウ Nさんは最低限の鉄の使用を主張したが、Tさんは積極的な鉄の使用を主張した。

エ Nさんは現代の構造力学にそって塔を復元すべきだと主張したが、Tさんは昔のやり方を主張した。

<結果> 正答率 74.4% (正答...ア)

<分析>

この設問は、文脈中の人物の立場の違いを正確にとらえながら読む力をみる問題である。本文中の人物の立場や考えの違いを整理し、共通点や相違点を明らかにしながら読む力については、全国学力・学習状況調査のB問題「読むこと：広告カードの比較」でも課題としてとらえられており、結果分析を踏まえた指導において「情報を抽象化・一般化して整理し、自分の考えをまとめる指導を重視する」ことがすでに示されている。この結果から、新聞記事や広告などの身近な複数の資料から情報を整理して共通点を見出し、そこから読み取った根拠をもとに自分の考えをまとめるといった言語活動を十分に行う必要がある。

(4) 対義語を正しく使う力をみる問題の例(「言語に関する知識・理解・技能」)

<問題> 四の二の2

次の1～3のそれぞれの文では、()のどの言葉を選択するのが最も適切ですか。ア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。

2 「否定」の対義語は、(ア決定 イ肯定 ウ判定 エ未定)です。

<結果> 正答率 60.3% (正答...イ)

<分析>

この設問は、対義語を正しく使う力をみる問題である。誤答の80%程度が「ア」であり、最も多かった。その要因として、言葉の意味を大まかな印象としてはとらえることができるが、意味をはっきりと理解し、自分の言葉として使いこなせるほどにはなっていない状況が考えられる。この結果から、抽象的な概念を表す語句についても、その言葉の理解のみならず、話や文章の中でできるだけ多く使用し、語感を磨き、言葉の意味を味わえるよう指導していく必要がある。

(1) 指導計画の工夫改善

情報を的確に読み取り、整理して、自分の考えを書く指導の充実を！

- ・「書くこと」では、様々な図や資料をもとに分かることを主語・述語の整った文で書く力や、具体的な例や体験を根拠にして自分の考えを決められた条件で書く力をさらに高める必要がある。そのために、全国学力・学習状況調査の結果でも示された「情報を的確に読み取る指導」及び「目的や視点を確かめながら、情報を比べて書く指導」に重点を置き、多様な文種、文章形態で書く機会を設定するよう、年間指導計画を工夫改善することが大切である。
- ・「読むこと」では、筆者の意見について自分の考えとその理由を明確にする力をさらに高める必要がある。そのために、全国学力・学習状況調査の結果でも示された「情報を抽象化・一般化して整理し、自分の考えをまとめる指導」に重点を置き、年間を見通して繰り返し指導することが大切である。またその際、自分の考えと理由につながりをもたせて話したり、書いたりする活動を位置付けた指導計画となるよう工夫改善することが大切である。

(2) 指導方法の工夫改善

「話し方・聞き方のよさ」を考えながら聞く指導の充実を！

- ・「話すこと・聞くこと」では、話の構成の効果や論理の展開の工夫に気を付けて話したり、聞き取ったりする力を高める指導が大切である。そのために、相手・目的意識等の「五つの言語意識」をもたせるとともに、話の構成の効果について評価項目・方法を明確にして自己評価したり、相互評価したりすることを通して、互いのよさや課題を見つめることができるようにする。

論理の展開を工夫して書く指導の充実を！

- ・「書くこと」では、自分の立場を明らかにし、その根拠を自分の体験や具体的な事実から見付け、論理の展開を工夫して書く力を高める指導を継続することが大切である。そのために、考えとそれを支える根拠のつながりや、それらの適否、効果などについて検討する場を位置付ける。また、決められた字数で書くことについても、改行や接続する語句、文末等の表現に留意しつつ、文章全体を見通しながら書くことが意識できるよう繰り返し指導し、生徒一人一人の学習状況を丁寧に見届けていくことが必要である。

書き手の意図や表現の効果を考える指導の充実を！

- ・「読むこと」では、社会生活に結び付いた文章・図表など様々な様式の資料を読み、筆者の意見について考察し、自分の考えとその理由を明確にする力を高める指導が大切である。そのために、書き手の意図、その根拠となる叙述、あるいは効果的に伝えるための表現の工夫等を見付ける読み方を身に付けさせていくことが必要である。また、複数の資料や文章を比較しながら自分の意見をもつことも大切である。

言語に関する知識・理解の定着を見届ける指導の充実を！

- ・「言語事項」では、日常の言語生活に役立てるための基礎的・基本的な事項として教師がその重要性を強く意識するとともに、一人一人の生徒に確実に身に付いているかを見届けることが大切である。そのために、漢字や語彙・文法に関する指導をきめ細かく行い、言語活動の中で、基礎的・基本的な事項を習得することの大切さを実感させる指導が必要である。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

計画的に家庭学習を進める指導の充実を！

- ・辞書類の活用や、学習した語句を文章中で使うことなどを習慣化させるとともに、日常の正しい言葉遣いについても配慮して言語環境を整えることが大切である。また、生徒が主体的に資料を活用しながら情報活用能力を高められるよう、学校図書館等の計画的な活用に努める必要がある。
- ・授業で学習した表現方法や着目するとよい表現を国語ノートにまとめたり、新聞等の記事を活用した学習を示したりするなど、家庭学習の進め方を具体的に指導する必要がある。また、自分で計画を立て、見通しをもって家庭学習を進める習慣の確立に向け、家庭と連携しながら指導の充実を図る。

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科教育等 学力向上P」授業改善（H16～18）及び授業改善推進プラン（H19～）」を参照する。[\(http://www.gifu-net.ed.jp/gec/\)](http://www.gifu-net.ed.jp/gec/)